

# ストリーマンヒューマン 北海道

Hokkaido  
Human  
Story

～北海道の歴史を刻んだ人々～



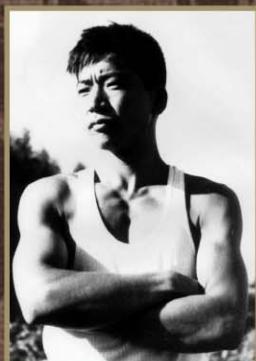
近藤重蔵



前田光子



村橋久成



神田日勝



小林多喜二



知里幸恵

北海道経済部観光局 北海道口ケーション連絡室

TEL 011-241-3230 FAX 011-232-4120 ● <http://www.pref.hokkaido.jp/keizai/kz-ksnko/900.fc/fc/index.htm>

協力／STVラジオ「ほっかいどう百年物語」



函館市中央図書館所蔵

# 近藤 重蔵

こんどう じゅうぞう

1771年 江戸で生まれる。

# J u z o   K o n d o

200年前に抝捉島に日本の領土であることを示す木柱を建てた探検家であり  
「道都札幌」を予言した学者。  
強い責任感と武士道の誇りを持ち、気概と信念を持って豪傑に生き抜いた。

重蔵は、江戸の先手与力の家に生まれた。民衆が天明の大飢饉に苦しむ中17歳の時私塾「白山義塾」を開くなど、並々ならぬ学才の持ち主だったと言われている。家督を継いで先手与力となった23歳の時、昌平坂学問所で学問吟味という試験に合格、これによって抜擢され、長崎奉行手付役として長崎に渡った。

寛政10年(1798)、重蔵は、幕府より蝦夷地の調査を命じられ、抝捉島に渡り「大日本恵登呂府」と標示した木柱を建て、抝捉島が日本の領土であることを確認した。

蝦夷地調査の帰路、十勝の広尾海岸が難所であることを知った重蔵は、山道12キロメートルを開削、蝦夷地で初めての開削道路となった。また平取町では、アイヌの伝説と義経伝説とを結びつけ30センチほどの義経像を奉納した。

その後も、国後島から抝捉島までの航路の開発を高田屋嘉兵衛に命じるなど抝捉島の開発に尽力。また、正確な輪郭を持つ「蝦夷地図」を作成した。当時蝦夷地は、外国船が煩雑に来航するようになり、文化3年(1806)から4年にはロシアの船が樺太、抝捉島、さらには利尻島周辺を襲うこともあった。

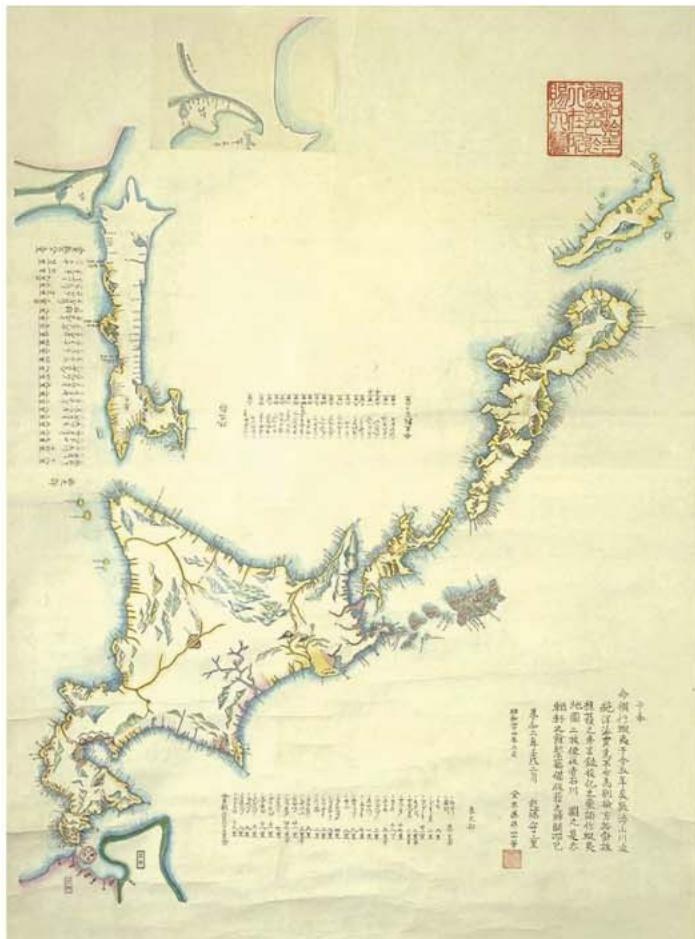
このため、文化4年(1807)幕府は、幕臣を蝦夷地に派遣。重蔵は、利尻島付近を巡視し、天塩川を上りそして石狩川を下った。江戸に戻った重蔵は、その年の12月、将軍徳川家斉に単独で謁見し、「要害たるべき地は、イシカリ川筋、カバト川、又は浜通りタカシマ・ヲタルナイの奥イシカリ、サッポロの西テンゴ山の辺を可とす…」と、北方の守備の中心地を石狩地方に置くべきと進言した。後に札幌が道都となることを予言したのである。

重蔵は、蝦夷地探検での功績を評価され、幕府より書物奉行の要職を与えられた。12年間に著した書物は、蝦夷地の地理にはじまり、歴史、政治経済など広い分野にわたり、その数は膨大なものとなった。

文政9年(1826)、長男が犯した殺傷事件により、家事不行届きで「お預け」となった重蔵だが、生涯毅然とした態度を取り続けたと言われている。

文政12年(1829)、不遇のまま58歳で人生を終えた重蔵だが、彼の北海道へ向けた情熱と氣概、その功績は、今も輝きを失うことはない。

探検を重ねた重蔵が奉納した義経像は、現在でも平取町の義経神社に残っている。



近藤重藏が作成した蝦夷地図 1802年(享和2年)  
北海道大学附属図書館北方資料室所蔵



義経神社 [平取町]



石狩川河口



札幌市の街並み



前  
田  
光  
子

まえだ みつこ

1912年 栃木県で生まれる。

# Mitsuko Maeda

日本で最も豊かな自然が残された山間の温泉街、阿寒湖温泉。  
宝塚歌劇団出身の華やかな都会育ちだった女性が、夫の遺志を継ぎ、  
20年もの長きにわたり、「阿寒の自然を守る」という一点に情熱を傾けた。

前田光子が、タカラジェンヌから、阿寒の前田一歩園主になったのは昭和32年のこと。それから「阿寒の母」と言われるほどに、阿寒の自然にこだわり、山林の保護、観光の発展、さらに一歩園の財団法人化に尽力した。役所から再三、一歩園を国に返した方がいいと忠告を受けたが、彼女はかたくなに拒絶した。国といえどもこの森を本当に守り抜くことができるだろうか。高度成長期の日本の中で、信じられるのは自分の意志だけ。目もくらむような大自然をたった一人で、あらゆる圧力に抵抗して残す努力をした。

彼女は草や木を傷つけることを極端に嫌った。時には、周囲を困らせるほど徹底したものだった。根分けをしないと良い花が咲かない進言する者が多いでも、決まって彼女はこう言った。「人間だって、腕を折られたり足を抜かれたりしたら痛いでしょう。草木だって生きているんですからね」「人間が自然を保護するというのはおこがましい。自然によって人間が守られている」光子の阿寒の自然美を子々孫々に 残したい、残さなければならないという思いのたけが込められていた。

昭和58年4月1日に財団法人前田一歩園財団が設立され、全財産がこれに寄付された。光子は、初代理

事長に就任直後、71歳でこの世を去った。



阿寒周辺の財団保有地



前田光子住居・現在記念館[釧路市阿寒町]



北海道大学附属図書館北方資料室所蔵

# 村橋久成

むらはし ひさなり

1842年 薩摩で生まれる。

# Hisanari Murahashi

北海道開拓と近代国家日本建設にかけた男の夢が札幌の地で叶った。

日本人のための、日本人によるビール造り

開拓使麦酒醸造所（現 サッポロビール）を誕生させた男、村橋久成。

薩摩藩出身。慶應元年（1865）藩命で英國、ロンドン大学に留学。帰国後、大砲隊を率いて討幕戦に参加し、箱館戦争では、政府軍軍監を務めた。明治4年、開拓使に出仕して東京出張所に勤務。明治7年屯田兵の入植地選定を担当、琴似村をその地に選び、養蚕を中心とした屯田兵村をつくった。明治9年開拓使東京官園内に建設が決まっていた麦酒醸造所を札幌に変更させ、自ら建設にあたり、醸造技術者中川清兵衛とともにビールの製品化に成功した。

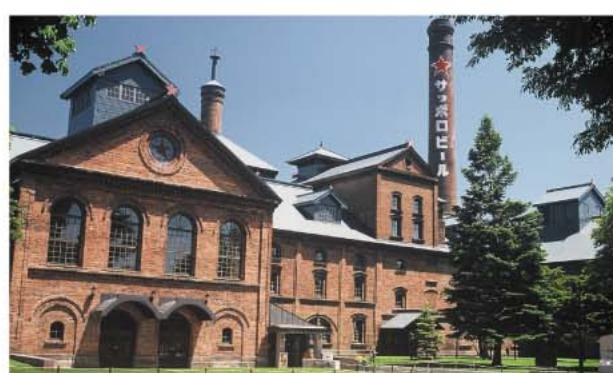
ところが、大久保利通が暗殺され、北海道官有物払い下げ問題が発生した明治14年、突然開拓使幹部の職を辞して行脚放浪に出る。明治25年神戸市外の路上に倒れているところを発見され病院に収容されたが最後を看取る人もないまま死亡した。

村橋が、ありつけの情熱を燃やして取り組んだ開拓使麦酒醸造所は、明治15年の開拓使廃止から4年後の明治19年に民間に払い下げられた。その後札幌麦酒会社となった。この頃には、このビール工場がすっかり札幌の名物となっていた。昭和39年には社名をサッポロビール株式会社と変更。醸造量は、明治9年の頃と比べると3万倍にも増えた。そして現在、サ

ッポロビールは全国に大きなシェアを持ち、その味は多くの人々に支持されている。



明治9年9月23日、開拓使札幌麦酒醸造所の開業式。ビール樽には「麦とホップを製すればビールとゆふ酒になる」と書かれている。  
開拓使のシンボル、五稜星をあしらったラベル（手描き原画）  
北海道大学附属図書館北方資料室所蔵



サッポロビール博物館【札幌市】サッポロビール博物館提供



神  
田  
日  
勝

かんだ にっしょう  
1937年 東京で生まれる。

N i s s h o K a n d a

「農民である。画家である」と明確に語った神田日勝。

「結局、どういう作品が生まれるかは、どう生き方をするかにかかっている。」  
(25周年記念全道展帯広巡回展目録より)  
彼の生涯を貫いた画家としての姿勢である

東京生まれの日勝が鹿追町に入植したのは昭和20年、8歳の時。当時の鹿追町は柏の木が生い茂り、熊笹が根を張る荒地だった。

中学を卒業後、農家を継ぎながら、本格的な創作に意欲を燃やすようになっていった日勝の第1作となったのが、痩せてあばら骨が浮き出た農耕馬が飼葉を食べるため細い首を伸ばしている「瘦せ馬」。昭和31年、19歳の時、帯広での平原社展に出品され受賞した。馬や牛、周囲の自然に興味を持ち、手塩にかけた農耕馬をいつもスケッチしていたと言われている。

昭和36年には、全道展に出品した「ゴミ箱」が知事賞を受賞。この頃画材は、農耕馬から家、ドラム缶や靴などといったような身近なものに広がっていた。

昭和40年には、東京都美術館で開催された独立展に「馬」と「死馬」の2点を出品し、入賞を果たす。画家として頭角を現し始めた日勝だが、14ヘクタールの広大な土地を耕す農家と画家の二足のわらじをはく生活は多忙を極め、風邪もひかないほど頑丈だった体も限界に達していた。

昭和45年、雷雨のなかで牧草積みをしていた日勝は体調を崩し入院する。病室で制作を続けようとした

が、症状は回復せず、その年32歳という若さで生涯を閉じた。

日勝の作品は、豊かな色彩と流動的な筆触で描かれる一方で、社会事象などを投影しており、現代社会に生きる人間へのメッセージを含んでいると言われている。最後の完成作で代表作でもある「室内風景」は、社会の矛盾や問題を鋭く突いた傑作として、北海道立近代美術館(札幌市)に所蔵されている。

平成5年、日勝の作品を後世に残すため、北海道で初めて個人の名の美術館である神田日勝記念美術館が鹿追町に誕生。むき出しのベニヤに馬の半身だけが描かれた「馬(絶筆)」など展示されている作品は、見る者に生き方を鋭く問いかけている。



馬(絶筆)



神田日勝記念美術館 [鹿追町]

(出典 神田日勝記念美術館 協力)



# 知里幸恵

ちり ゆきえ

1903年 登別で生まれる。

## Yukie Chiri

19歳で『アイヌ神謡集』を残したアイヌ民族の女性。

「銀の滴降る降るまわりに、金の滴降る降るまわりに」ではじまる「梟の神の自ら歌った謡」をはじめとして、一語一語アイヌ語の適切な訳と表現の豊かさ、美しさは前代未聞の素晴らしさである。

知里幸恵は明治36年温泉地で有名な登別に生まれた。その頃の登別はまだ寒村で、人口2500人のうち約1割は、アイヌ民族だった。知里家は、農業と牧畜を生業とし、幸恵の家のすぐ近くには、アイヌの祖先がヌプルペツ（水色の濃い川）と呼んだきれいな小川があった。家の後ろの丘からは、広い太平洋を望むことができ、幸恵はこの大きな自然に親しみ、成長していった。

大正7年の夏、幸恵の祖母であり「アイヌの最後の最大の叙情詩人」と絶賛した金成モナシノウクのユーカラを聞くため訪れた言語学者の金田一京介は、幸恵が書いた日本語の文章の美しさに驚き、そのうえ、幸恵がアイヌ語の難しい古語でうたわれている長編のユーカラを暗唱していることを知り、重ねて目を見張った。

大正9年、女学校を卒業した幸恵に金田一はユーカラを筆録するためのノートを送る。ユーカラを表現するためローマ字を覚えた幸恵は1年後、金田一のもとに1冊のノートを送った。そこには、見事なローマ字でユーカラが綴られていた。その後、金田一のもとには2冊のノートが送られ、金田一は彼女のノートを本として

出版することを考える。

大正11年、19歳の幸恵は上京し、金田一の家に身を寄せ、出版のため原稿の整理を続けた。しかし、この夏は例年より暑さが厳しく、慣れない土地で幸恵の健康状態は悪化、『アイヌ神謡集』と名付けられたこの本の、最後の校正を終えた幸恵は、その後容体が急変し、帰らぬ人となった。

平成2年6月8日、幸恵が通った上川第五尋常小学校（現在の旭川市北門中学校）に、知里幸恵文学碑が建てられた。以来、北門中学校では毎年この日を知里幸恵生誕祭として祝っている。



知里幸恵文学碑 [旭川市]



# 小林多喜二

こばやし たきじ

1903年 秋田県で生まれる。

# Takiji Kobayashi

「わが町・小樽は、非道なものに臆せず立ち向かう私の文学的勇気を培い、育てくれた」という言葉を残し、多喜二は故郷の小樽から東京へ向かう。権力と闘い続けた、日本プロレタリア文学運動が生んだ作家の死は、進歩と自由のため、誠実に、身をもって国民に信念を貫く勇気を教えた。

4歳の時、小樽市に移住。苦学をしながら小樽高等商業学校(現在の小樽商科大学)に入學し、文学の才能を開花させていった。詩や短編を発表する一方、中央雑誌にも投稿。その後、有志と同人誌『クラルテ』を発行するなど文筆活動を続け、昭和3年に『一九二八年三月十五日』でデビュー。プロレタリア文学の画期的な飛躍をもたらし、作品は、世界的に反響を呼んだ。昭和4年に書かれた『蟹工船』は、漁夫への搾取を、国家、財閥、軍隊との全体的な関係でとらえ、労働者の闘争を生き生きと描いたスケールの大きな作品で、当時3万5千部という記録的な売れ行きとなつた。

第二次世界大戦前の日本は、帝国主義が押し進められ、自由を求める思想や運動は強く弾圧されていた。そんな中、若い革命的作家としての名声を得た多喜二は、貧しい人々を救うため上京、精力的に活動を始めるが、まもなく投獄され、非業の死を遂げる。

多喜二の遺骨は、彼が愛した小樽に葬られた。昭和39年、小樽市の旭展望台に多喜二の同窓生によって、小林多喜二文学碑が建立された。本の見開きをかたどった碑には、多喜二の肖像と、青年労働者の

顔が描かれ、獄中から故郷小樽への思いを切々と記した友人への手紙が刻まれている。

「冬が近くなると ぼくはそのなつかしい国のことを見て 深い感動に捉えられている そこには運河と倉庫と税関と桟橋がある そこでは 人は重つ 苦しい空の下を どれも背をまげて歩いている ぼくは何処を歩いていようが どの人をも知っている 赤い断層を処々に見せている階段のように山にせり 上がっている街を ぼくはどんなに愛しているか分らない」



「蟹工船」原稿



小林多喜二文学碑〔小樽市〕